

業務目的・概要

子宮頸がんは、女性特有のがんとして罹患率が乳がんに次いで高く、他のがんと異なり、20代30代の女性の罹患が多いのが特徴です。

原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染してがんに進行するまで数年から十数年かかるため、**10代のうちから正しい知識と行動を身に付けておくことが大切**です。

子宮頸がんは、ウイルス感染を防ぐ「**HPVワクチン**」とがんを早期に発見する「**子宮頸がん検診**」の両輪で予防することができます。

HPVは非常に種類が多くワクチンで100%予防できるわけではありませんので、20歳になったら子宮頸がん検診を受診することも併せて啓発します。

メインターゲットを10代女子に置きながら、夏休み・冬休み期間中に子宮頸がん予防について、ご家庭で話し合うきっかけとなるコンテンツを制作し、正しい情報を繰り返し届けることで、子宮頸がん予防に関する県民全体の認識度の飛躍的な向上を目指します。

一生のうちに
子宮けいがんになる人は

1万人あたり132人



HPVワクチン接種後に
生じた症状（重篤）の報告頻度

1万人あたり5人